笛吹高校図書館

図書館通信　vol. 7

『パズルと天気』　伊坂幸太郎　ＰＨＰ研究所

アンソロジーに収録されていたために、いままで本にまとめられていなかった短編に、書き下ろしを加えた短編集！「パズル」で始まり、「Weather」で終わります。どれも面白いのですが、イチオシの「Weather」を紹介したいと思います。

学生時代から仲がよく、まさかの同じ企業への就職、さらに同じ部署に所属することにもなった、ことごとく腐れ縁の清水は、これ以上はないほどの女たらしだ。いつも女性と、いつも違う女性と仲よくしていて、把握できないくらいの女性遍歴をたどっている。彼が女性といるときには、天気の話しかできない。うかつにプライベートな話をすると、すぐにほかの女性とも付き合っていることがバレてしまい、ややこしいことになるからだ。そんな彼が結婚するという。相手はなんと僕の元カノの明香里だ。明香里は清水の過去の女関係をある程度想像していた（実際はその何倍もの過去があるのだけれども）。そして、いまでも自分以外に女性がいるんじゃないかと心配している。だから、僕に彼のスパイをするようお願いしてきたのだった。結婚式についても、何かと不審な点が見受けられるという…。

『皇后の碧（みどり）』　阿部智里　新潮社

＜八咫烏（やたがらす）シリーズ＞の著者のまったく新しいファンタジー！

土の精霊の少女・ナオミは、火竜（ドラゴン）によって故郷と家族を焼かれ、風の精霊の孔雀王ノアに拾われる。それから、５年後、16歳になったナオミは女官見習いとして働いていて、「風送り」の儀式へと参加した。これはノアの妻のための死の儀式だ。たった一つ腕に小さな黒子（ほくろ）ができたために、美しさが損なわれてしまったと感じた彼女が望んだのだった。ノアの新たな妻を決めるために、すべての風の精霊たちを統べる蜻蛉帝（せいれいてい）・シリウスがやってきた。すると、シリウスはノアの後妻のことなどそっちのけで、なぜかナオミのことをおおいに気に入るのだった。「私の寵姫（ちようき）の座を狙ってみないか？」なんとナオミはシリウスの後宮へと入ることになってしまう。そこには、風と火と水、３人の姫がいて、シリウスの胸には、皇后である風の姫・イリスの瞳の色によく似た首飾り「皇后の碧」が常にあった…。

☆**『ブレイクショットの軌跡』　逢坂冬馬（あいさか）　早川書房**

直木賞ノミネート作の本命！ デビュー作にして本屋大賞を受賞した**『同志少女よ、敵を撃て』**では独ソ戦で活躍した女性スナイパーを、続く**『歌われなかった海賊へ』**ではナチス体制下のドイツで反抗する少年たちを描いた著者の大注目の３作目は、大方の予想に反して、現代の日本が舞台の作品でした。しかし、中央アフリカ共和国の少年兵の物語も描かれます。それは、架空の国産四輪駆動車（ＳＵＶ）「ブレイクショット」によって可能となりました。「ブレイクショット」の所有者はどんどん変わっていきます。その所有者を主人公にした短編をつなげた大きな連作短編集として本作は構想されたのです。いやはや、それぞれの作品の濃さといったら！ 余裕で十冊の本がつくれることでしょう。ものすごい密度の一冊です。「ブレイクショット」の意味は、ビリヤードの最初の一撃のショットのこと。どの球も弾かれて遠くまで転がってゆきます。まったく影響を与えられない球なんてありません。球はどこまで転がってゆくのか。

プロローグには、静岡の自動車工場で期間工として働く青年が登場します。約３年間、寮生活をしながら、きつい労働に従事しているのだが、その任期の最後の日、「ブレイクショット」の仕上げ段階で、彼は同僚のあるミスを目撃してしまう。明日からは自由だ。はたして、告発をすべきかをいきなり考えさせられる。そんな「ブレイクショット」が所有者たちの運命を翻弄してゆくのだ。ビリヤードの球のように。

なかでもいちばん胸アツだったのが、サッカーで出会う二人の少年の物語。「出会いによって世界が変わるということがあるのだ、と知ったのは、彼がサッカーと後藤晴斗に出会った、十歳のときだった」。小４の修悟は体育のクラス対抗試合でひとりで５点も取って、はじめて、スポーツというものに夢中になった。学校のクラブに入ろうと思ったが、先生に、もっと専門的にやったほうがいいと勧められ、ユースサッカーチームを紹介された。既にサッカー歴が５年くらいある同じ年齢の子たちのレベルを凌駕していたので、一度の試合で上級生のクラスへと行くことになった。さすがに上級生たちにはまったく通用しなかったが、修悟が左利きだったことを晴斗が見抜き、左足を使うようになったら、見違えるような動きになった。修悟は晴斗に言った。「プロのサッカー選手になって、世界で活躍したい！」晴斗はマネージャーになって、二人で一緒に世界を巡ろうと。修悟はサッカー選手として世界を目指し、晴斗は個人マネージャーとしてそれを支える。望みうる最高の夢。しかし、タワマン住まいの副社長だった修悟の父が経済的な苦境に立たされ…。

『つくみの記憶』　白石一文　双葉社

隠善(いんぜん)つくみ。つぐみではなくて、つくみ。自分より８歳年下の23歳のアルバイト。会社の懇親会で、彼女と話したとき、遼平はなぜか「この人は、俺に会いに来たんじゃないかな…」と感じていた。昔からの知り合いのような気がする。ずっと待っててくれたのではないか。彼女とはこれまでずっと付き合っていて、同棲したこともあったし、いまでもどこかに彼女と一緒に借りた部屋がそのままある ── なぜだか、そんな気がするのだ。遼平には恋人がいる。三つ下の幼なじみでもう二十数年来の付き合いで、結婚も考えている。ところが、そんな彼女と比べても、やけに気持ちが落ち着くのだ。記憶がよみがえってきた。祖父の田舎で、３歳のときに出会い、ほかの誰にもなつくことがなかったのに、自分にだけはすり寄ってきたねこのシロ。５歳になる年、遼平が肺炎で死線をさまよったあの夏。シロは「遼平さん、さようなら」とたしかに言って、それ以来、二度と姿を現すことがなかった…。もしかしたら、つくみはシロの生まれ変わりなんじゃないか。つくみがアルバイトを辞めることになり、その話をするために会うと、彼女は「お部屋を見せてもらってもいいですか？」と遼平の部屋までついてきた。つくみはあらゆる場所を見て回ったあげく、「私、ここに住んでもいいですか？」と尋ねた。なんと彼女は一緒に暮らしたいというのだ。「いいですよね」。当然のような口調で念を押してくるつくみに、思わず遼平は「今夜から一緒に暮らそうか」と言ってしまう。そして初めての夜、夜中の二時にチャイムが鳴った…。

『舟を編む』　三浦しをん　光文社

「本屋大賞」を受賞し、松田龍平・宮崎あおい主演の映画も大ヒットし、アニメ化もされた名作が、今度はＮＨＫ－ＢＳで池田エライザ・野田洋次郎主演でＴＶドラマ化され、こちらも大好評だったために、いよいよ地上波初登場です！ 愛あふれる辞書づくりの物語。ＴＶドラマのほうは、ファッション誌から異動してきた新入りのみどり（池田エライザ）視点で描かれます。

「辞書は、言葉の海を渡る舟だ」。大手の出版社・玄武書房に勤める「まじめ」という冗談みたいな名字の馬締光也(まじめみつや)は、常人にはわからない辞書作りの才能を見初められ、辞書編集部に迎え入れられる。辞書をこよなく愛するベテラン編集部員がもうすぐ定年になるため、その後継として、念願の新しい辞書『大渡海(だいとかい)』を編纂する仲間として。果たして、彼は辞書作りの戦力となるのか？ 下宿に現れた運命の女性「かぐや」との恋の行方は？ あぁ、こんなに辞書作りが楽しいものだったなんて！

『宝島』　真藤順丈（しんどうじゅんじょう）　講談社

直木賞 ＆ 山田風太郎賞W受賞の大傑作が、妻夫木聡主演、広瀬すずら豪華キャスト集結で映画化！ 沖縄を舞台にしたバツグンに面白いエンタテイメント小説でありながら、同時に沖縄の痛みを痛切に思い知らさせる作品です。

「わりを食った島民が報われるような、この島が負った重荷をチャラにできるような、そういうでっかい“戦果”をつかまなくちゃならん」。戦果アギャー。「戦果をあげる者」という意味の島の言葉で、アメリカの倉庫や基地から物資を奪ってくる者を意味した。地元のコザでも沖縄全土でもいちばんの戦果アギャーが、オンちゃんだった。あのアメリカに連戦連勝し続けたのだ。オンちゃんは、だれもが食うや食わずの毎日を送るなかで、奪ってきた“戦果”を身内だけではなく地元じゅうに配って回った。オンちゃんの“戦果”がどれだけ地元を助けてきたか。確実にみんなの暮らしを上向きにしたのだった。オンちゃんはまさしく“英雄”だった。琉球政府の行政主席よりも拳闘のチャンピオンよりも尊敬と寵愛を集めてやまない、この時代の、この島ならではの申し子。奪ってきた“戦果”をどっさり抱えた、ある誇らしい夜。自分たちだけが世界一の軍隊を面白いようにきりきり舞いさせて、オンちゃんのそばには、親友（イイドゥシ）のグスクと弟（ウットゥ）のレイと恋人のヤマコがそろっていて。「おれはこれで、十分だけどさぁ」と前置きをしてオンちゃんは言ったのだった。「泥棒（ヌスル）の一等賞じゃつまらん。アメリカーがのたうちまわるほど悔しがって、歯ぎしりして日本人（ヤマトンチュ）が羨ましがるような、故郷（シマ）にとっての本物の英雄になれるような勝負を張らんとな」。「こんなの長つづきするわけないさ」。オンちゃんが二十歳（あの地上戦を体験した十三歳が成人した）になったばかりの夏の夜、かつてない大きなヤマを張った。各地の戦果アギャーを参集させ、嘉手納空軍基地・キャンプ・カデナを襲ったのだ。ところが、物資を盗み出すところまでは首尾も上々だったのに、いざ脱出となって警笛を吹かれ、武装したアメリカ兵に追いかけられることになってしまう。人間狩りの様相を呈するなかで、オンちゃんは還ってこなかった。オンちゃんは犬死にするような男ではないはずだ。オンちゃんと同じ宇宙（テインガーラ）にいた、オンちゃんが唯一無二の存在である三人、グスク、レイ、ヤマコは、行方を捜す。そして、オンちゃんが“予定にない戦果”を手に基地を出たことを知る…。「あの頃、沖縄はアメリカだった」。

――――― 図書館の紫陽花が、水をあげるたびに紫の色味を増していきます。

では、図書館で。